

(様式例 2)

科目別シラバス (学習計画)

科目名 (時間)	1 職務の理解【6時間】			
	時間	時間詳細		学習内容
到達目標		通信	通学	
到達目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。			
項目名				
理解 (1) 多様なサービスの	3時間		1.5時間	◎講義 ・介護と介護職員初任者研修についての説明 ・介護保険サービス（居宅、施設）、・介護保険外サービス ・自己紹介及び多様なサービス理解
			1.5時間	◎演習 ・ロールプレイ：訪問介護・訪問入浴介護サービス開始前の入室・挨拶 ・施設や訪問宅を想定した自己紹介（修了評価）
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3時間		1.5時間	◎講義 ・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ・居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ（視聴覚教材の活用、現場職員の体験談、入浴車両の見学） ・ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携
			1.5時間	◎演習 ・テキストビデオ演習：グループホームの理解 ・テキストビデオ演習：デイサービスの理解 ・演習：生活と介護について考えてみる 休日の自分の大まかな生活状況を作成しその後自分が要介護状態になった時どの部分に介護が必要か考える。(テキスト) ・グループワーク：介護現場で提供されているケア内容を考える。(テキスト)
合計時間数	6時間			

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例 2)

科目別シラバス (学習計画)

科目名(時間)	2 介護における尊厳の保持・自立支援【9時間】				
到達目標	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。				
科目修了時のテストポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の目標や展開について尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取りいれて考えられる。 ・虐待の定義、身体拘束、及びサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷付ける介護についての基本的なポイント。 				
項目名	時間	時間詳細		学習内容	
		通信	通学		
(1) 人権と尊厳を支える介護	3時間	1.5時間	通学	◎講義 ①人権と尊厳の保持 ・個人として尊重、・アドボカシー、・エンパワメントの視点、 ・「役割」の実感、・尊厳のある暮らし、・利用者のプライバシーの保護 ②ICF ・介護分野における ICF ③QOL ・QOL の考え方、・生活の質 ④ノーマライゼーション ・ノーマライゼーションの考え方 ⑤虐待防止・身体拘束禁止・身体拘束禁止、・高齢者虐待防止法、・高齢者の養護者支援 ⑥個人の権利を守る制度の概要 ・個人情報保護法、・成年後見制度、・日常生活自立支援事業	
				1.5時間	◎演習 ・要介護1程度の事例を読み、ICFの構成要素に従って、A氏の評価をする (修了評価)
(2) 自立に向けた介護	6時間	1.5時間	通学	①自立支援 ・自立・自律支援、・残存能力の活用、・動機と欲求、・意欲を高める支援、・個別性/個別ケア、・重度化防止	
				1.5時間	◎演習 ・要支援及び事業対象者の事例を読み、自立支援の方法について複数考えてみる ・グループワーク：ベッド上でねたきりになるとどのような症状が出るのか (テキスト)
				1.5時間	②介護予防 ・介護予防の考え方
				1.5時間	◎演習 ・要支援及び事業対象者の事例を読み、介護予防の方法について複数考えてみる
合計時間数	9時間				

※別紙 2 に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス (学習計画)

科目名(時間)	3 介護の基本【6時間】			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。 ・介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。 			
科目修了時のテストポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門性による介護の違い、介護の専門性について。 ・介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について。 ・介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族などとかかわる際の留意点について。 ・生活支援の場で遭う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。 ・介護職に起こりやすい健康障害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点について。 			
項目名	時間	時間詳細		学習内容
		通信	通学	
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5時間	45分		◎通信：通信学習課題2 ・(1) 介護の基本○×問題
		45分		◎講義 ①介護環境の特徴の理解 ・訪問介護と施設介護サービスの違い、・地域包括ケアの方向性 ②介護の専門性 ・重度化防止・遅延化の視点、・利用者主体の支援姿勢、・自立した生活を支えるための援助、・根拠のある介護、・チームケアの重要性、・事業所内のチーム、・多職種から成るチーム ③介護に関わる職種 ・異なる専門性を持つ多職種の理解、・介護支援専門員、・サービス提供責任者、・看護師等とチームとなり利用者を支える意味、・互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、 ・チームケアにおける役割分担
(2) 介護職の職業倫理	1.5時間	45分		◎通信：通信学習課題2 ・(2) 日本介護福祉士会の倫理綱領の項目と概要の記述
		45分		◎講義 職業倫理 ・専門職の倫理の意義、・介護の倫理(介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等)・介護職としての社会的責任、・プライバシーの保護・尊重

(3) リスクマネジメント における安全の確保	1.5 時間	45 分	◎通信：通信学習課題 2 ・(3) 介護現場で起こりうる利用者のリスク例を調べる
		45 分	◎講義 ①介護における安全の確保 ・事故に結びつく要因を探り対応していく技術、・リスクとハザード ②事故予防、安全対策 ・リスクマネジメント、・分析の手法と視点、・事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町村への報告等）、・情報の共有
(4) 介護職の安全	1.5 時間	45 分	◎通信：通信学習課題 2 ・(8) 感染対応例を調べる ・(9) 腰痛予防について記述する ・(10) 介護現場でおこった事故・アクシデントを記述
		45 分	◎講義 介護職の心身の健康管理 ・介護職の健康管理が介護の質に影響、・ストレスマネジメント、・腰痛の予防に関する知識、・手洗い・うがいの励行、・手洗いの基本、・感染症対策
合計時間数	6 時間		

※別紙 2 に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30 分を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス (学習計画)

科目名 (時間)	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携【9時間】			
到達目標	介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。			
科目修了時のテストポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・生活全体の支援の中で介護保険制度の位置付けを理解し、各サービスや地域支援の役割について ・介護保険制度や障害者福祉制度の理解、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について ・ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて ・高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見制度の目的、内容について ・医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士などが行う医行為などについて 			
項目名	時間	時間詳細 通信 通学		学習内容
(1) 介護保険制度	3時間		1.5時間	◎講義 ①介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ・ケアマネジメント、・予防重視型システムへの転換、・地域包括支援センターの設置、・地域包括ケアシステムの推進 ②仕組みの基礎的理解 ・保険制度としての基本的仕組み、・介護給付と種類、・予防給付、・要介護認定の手順 ③制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 ・財政負担、・指定介護サービス事業者の指定
			1.5時間	◎演習 ・グループワーク：事例を読みケアプランを作成する(テキスト)
(2) 医療との連携とリハビリテーション	3時間		1.5時間	◎講義 ・医行為と介護、・訪問看護、・施設における看護と介護の役割・連携、・リハビリテーションの理念
			1.5時間	◎演習 ・介護を行う上で医行為ではない行為について話し合う(修了評価)
(3) 障害者自立支援制度およびその他制度	3時間		1.5時間	◎講義 ①障害者福祉制度の理念 ・障害の概念、・ICF(国際生活機能分類) ②障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解 ・介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで ③個人の権利を守る制度の概要 ・個人情報保護法、・成年後見制度、・日常生活自立支援事業
			1.5時間	◎演習 ・機能がおなじでも、人によって活動制限や参加制約が異なるという例を話し合ってみる。(例肘関節が屈曲15度で固まっているA氏とB氏についてなど)(テキスト)
合計時間数	9時間			

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス (学習計画)

科目名(時間)	5 介護におけるコミュニケーション技術【6時間】			
到達目標	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき(取るべきでない)行動例を理解している。			
科目修了時のテストポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて ・家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職として持つべき視点 ・言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点 ・記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを上げる 			
項目名	時間	時間詳細		学習内容
		通信	通学	
(1) 介護におけるコミュニケーション	3時間		1.5時間	◎講義 ①介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ・相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、・傾聴、・共感の応答 ②コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション・言語的コミュニケーションの特徴、・非言語コミュニケーションの特徴 ③利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の思いを把握する、・意欲低下の要因を考える、・利用者の感情に共感する、・家族の心理的理解、・家族へのいたわりと励まし、・信頼関係の形成、・自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする、・アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い ④利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際・視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術、・失語症に応じたコミュニケーション技術、・構音障害に応じたコミュニケーション技術、・認知症に応じたコミュニケーション技術
			1.5時間	◎演習 ・傾聴と共感(修了評価) ・演習：傾聴と共感 ・演習：バーバルコミュニケーション ・グループワーク：ノンバーバルコミュニケーション ・演習：ノンバーバルコミュニケーション

(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	3 時間	1.5 時間	◎講義 ①記録における情報の共有化 ・介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、・介護に関する記録の種類、・個別援助計画書(訪問・通所・入所、福祉用具貸与等)・ヒヤリハット報告書・5W1H ②報告 ・報告の留意点、・連絡の留意点、・相談の留意点 ③コミュニケーションを促す環境 ・会議、・情報共有の場、・役割の認識の場(利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼)、・ケアカンファレンスの重要性
		1.5 時間	◎演習 ・演習：記録のポイント ・演習：5W3H ・グループワーク：仮想ケースカンファレンス
合計時間数	6 時間		

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容(演習手法等)を、実習については実施方法(学習目的等)を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例 2)

科目別シラバス (学習計画)

科目名 (時間)	6 老化の理解【6時間】			
到達目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。			
科目修了時のテストポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢・老化に伴う整理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面など、の変化に着目した心理的特徴について ・高齢者に多い疾患の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて 			
項目名	時間	時間詳細		学習内容
		通信	通学	
と日常 (1) 老化に伴うこと からだの変化	3時間	1.5時間		◎通信：通信学習課題 4 ・(6) 加齢に伴う変化について膝が曲がる要因を記述 ・(7) 高齢者に多い症状について、○×形式回答する ・(8) 高齢者に多い疾患について、○×形式回答する ・(9) 高齢者の筋力低下による動きと歩行、姿勢を記述
			1.5時間	◎講義 ①老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ・防衛反応(反射)の変化、・喪失体験 ②老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ・身体的機能の変化と日常生活への影響、・咀嚼機能の低下、 ・筋・骨・関節の変化、・体温維持機能の変化、・精神的機能 の変化と日常生活への影響 ◎演習 ・高齢者疑似体験(修了評価)
(2) 高齢者と健康	3時間	1.5時間		◎通信：通信学習課題 4 ・(10) 誤嚥性肺炎について記述せよ ・(11) 脳卒中について文章を完成させる ・(12) パーキンソン病の症状詳細について調べる ・(13) 変形性関節症について調べる ・(14) 関節リウマチについて文章を完成させる ・(15) 認知症について文章を完成させる
			1.5時間	◎講義 ①高齢者の疾病と生活上の留意点 ・骨折、筋力の低下と動き・姿勢の変化、関節痛 ②高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ・循環器障害(脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患)、循環器障害の危険因子と対策、 ・老年期うつ病症状(強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症)、 ・誤嚥性肺炎、病状の小さな変化に気付く視点、 ・高齢者は感染症にかかりやすい
合計時間数	6時間			

※別紙 2 に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30 分を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容(演習手法等)を、実習については実施方法(学習目的等)を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス (学習計画)

科目名 (時間)	7 認知症の理解【6時間】			
到達目標	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。			
科目修了時のテストポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について ・ 健康な高齢者の「物忘れ」と認知症による記憶障害の違いについて ・ 認知症の中核症状と行動・心理症状などの基本的特性、及びそれに影響する要因 ・ 認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションの取り方、及び介護の原則について、若年性認知症の特徴 ・ 認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、キーワードの列挙 ・ 認知症の利用者とコミュニケーションの原則、ポイントについて理解でき、具体的ななかかわり方ができる ・ 家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて 			
項目名	時間	時間詳細		学習内容
取り巻く状況 (1) 認知症を	1.5時間	45分		◎通信：通信学習課題 5 ・ 2) 認知症の方の尊厳を保持するケアの対応例を挙げる
			45分	◎講義 認知症ケアの理念 ・ パーソンセンタードケア・認知症ケアの視点（できることに着目する）
認知症の基礎と健康管理 (2) 医学的側面から見た	1.5時間	45分		◎通信：通信学習課題 ・ 1) 認知症の種類に関する○×問題 ・ 3) 認知症と健忘症の違いを記述
			45分	◎講義 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 ・ 認知症の定義、・もの忘れとの違い・せん妄の症状・健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア）・治療、 ・ 薬物療法・認知症に使用される薬
常生活 (3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日	1.5時間	45分		◎通信：通信学習課題 ・ 4) BPSD 対応時の必要な視点 ・ 5) 認知症の方への対応○× ・ 6) 認知症の介護の基本視点 ・ 7) 認知症の方への環境配慮
			45分	◎講義 ①認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ・ 認知症の中核症状・認知症の行動・心理症状（BPSD）、 ・ 不適切なケア・生活環境で改善 ②認知症の利用者への対応 ・ 本人の気持ちを推察する、・プライドを傷つけない・相手の世界に合わせる・失敗しないような状況をつくる・すべての援助行為がコミュニケーションであること・身体を通したコミュニケーション・相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する・認知症の進行に合わせたケア

の 支 援 (4) 家 族 へ	1.5時 間	45 分	◎通信：通信学習課題 ・8) 認知症の家族の支援の視点
		45 分	◎講義 ・認知症の受容過程での援助・介護負担の軽減（レスパイトケア）
合計時間数	6時間		

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス (学習計画)

科目名(時間)	8 障害の理解【3時間】			
到達目標	障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。			
科目修了時のテストポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・障害の概念とICFについて概説でき、各障害の内容・特徴及び障がいに応じた社会支援の考え方 ・障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方 			
項目名	時間	時間数		学習内容
		通信	通学	
解(1) 障害の基礎的理論	1時間	30分		◎通信：通信学習課題5 ・10) ノーマライゼーションの概念についての記述
			30分	◎講義 ①障害の概念とICF ・ICFの分類と医学的分類、・ICFの考え方 ②障害者福祉の基本理念 ・ノーマライゼーションの概念
か(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かわり支援等の基礎的知識	1時間	30分		◎通信：通信学習課題5 ・9) 失認について文章を完成させる ・11) ①遂行機能と遂行機能障害について ・11) ②遂行機能障害の症状とその内容 ・11) ③遂行機能障害のリハビリ
			20分	◎講義 ①身体障害 ・視覚障害、・聴覚、平衡障害、・音声/言語/咀嚼障害、・肢体不自由、・内部障害 ②知的障害 ・知的障害 ③精神障害(高次脳機能障害・発達障害を含む) ・統合失調症/気分(感情障害)/依存症などの精神疾患、・高次脳機能障害、・広汎性発達障害/学習障害/注意欠陥多動性障害などの発達障害 ④その他の心身の機能障害 ◎演習 ・白杖体験(修了評価)
の理(3) 家族の心解、かわり支援	1時間	30分		◎通信：通信学習課題 ・障害の受容課程を述べよ
			20分	◎講義 家族への支援 ・障害の理解・障害の受容支援、・介護負担の軽減
合計時間数	3時間			

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、

演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス (学習計画)

科目名 (時間)	9 こころとからだのしくみと生活支援技術Ⅰ【75時間】 【基本知識の学習】(12時間)			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を修得する。 			
科目修了時のテストポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度などに応じた介護・施設など、それぞれの場面における高齢者の生活について ・要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則について概説でき、生活の中の介護予防及び介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方について 			
【基本知識の学習】(12時間)				
項目名	時間	時間詳細		学習内容
		通信	通学	
(1)介護の基本的な考え方	3時間	1.5時間		◎通信：通信学習課題6 <ul style="list-style-type: none"> ・6) 生活援助の目的とは何か ・7) 自立支援で大切となる視点を述べる ・さまざまな〇〇中心のケアについて知ったうえでパーソンセンタードケアについて記述する。 ・自己選択及び自己決定の支援について記述する ・身体拘束の種類を記述する
			1.5時間	
(2)介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3時間	1.5時間		◎通信：通信学習課題6 <ul style="list-style-type: none"> ・1) 記憶の種類を記述する ・心の持ち方が行動に与える影響について経験したことを記述せよ ・体の状態がこころに与える影響として経験したことを記述せよ
			1.5時間	
(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解	6時間	3時間		◎通信：通信学習課題6 <ul style="list-style-type: none"> ・2) 図に示した各関節の名称を記述する・表に感覚の分類を記入する・唾液の働きについて記述する ・3) 関節の可動域について文章を完成させる ・4) 感覚の分類を記入する ・5) 唾液の働きについて記述
			3時間	
小計	12時間			

(様式例 2)

科目別シラバス (学習計画)

科目名 (時間)	9 こころとからだのしくみと生活支援技術Ⅱ【75時間】 【生活支援技術の講義・演習】(51時間)
到達目標	<ul style="list-style-type: none">・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を修得する。
科目修了時のテストポイント	<ul style="list-style-type: none">・利用者の身体の状況に合わせた介護、環境整備についてポイント・人の記憶の構造や意欲などを支援と結びつけることができる・人体の構造や機能が列挙でき、なぜ行動が起こるのかを概説できる・家事援助の機能と基本原則について列挙できる・装うことや、整容の意義について概説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる・体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器や様々な車いす、杖などの基本的使用法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだの仕組みが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる・食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだの仕組みが理解され、指示にもとづいて介助を行うことができる・入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだの仕組みが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる・排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだの仕組みが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる・睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだの仕組みが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる・ターミナルケアの考え方、対応の仕方。留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割やほかの職種との連携（ボランティアを含む）について列挙できる

項目名	時間	時間詳細		学習内容
		通信	通学	
【生活支援技術の講義・演習】(51時間)				
(4) 生活と家事	3時間		1.5時間 1.5時間	◎講義 ・生活歴、・自立支援、・予防的な対応、・主体的・能動性を引き出す、・多様な生活習慣、・価値観 ◎演習 ・過去の生活歴や現在の生活を知る方法を話し合う・介護予防の方法を話し合う・過剰介護と本人の主体性/能動性を生かしたい支援について話し合う
(5) 快適な居住環境整備と介護	6時間	1.5時間 1.5時間	1.5時間 1.5時間	◎通信 通信学習課題6 17-①) A氏に必要な介護内容を記述する 17-②) 本事例で行った方が良いと思う敷地内の住宅改修について記述する ・自分の家及び周囲の環境を図に示し、半身まひであったと仮定してどのような居住環境にすれば生活しやすいかを赤ペンで追加する。(参考事例通信学習課題6(17)A氏の自宅家屋周辺図参照) ◎講義 ・家庭内に多い事故・バリアフリー・住宅改修、・福祉用具貸与 ◎演習 ・いろいろな福祉用具を動かしてみる
自立に向けた介護 (6) 整容に関連したところからだのしくみと	6時間		1.5時間 1.5時間 1.5時間 1.5時間	◎講義 ・IADL・ADLについて ・身体状況に合わせた衣服の選択、着脱・身じたく・整容行動・洗面の意義・効果 ◎演習 ・口腔ケアの仕方を学ぶ(修了評価) ・フィルムで評価してみる(修了評価)
くみと自立に向けた介護 (7) 移動・移乗に関連したところからだのし	6時間		1時間 1時間 1時間 45分 45分 45分 45分	◎講義 ・利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法、・利用者の自然な動きの活用、・残存能力の活用・自立支援・重心・重力の働きの理解・ボディメカニクスの基本原則/移乗介助の具体的な方法(車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド/車いす間の移乗、全面介助での車いす/様式トイレ間の移乗)・移動介助(車いす/歩行器/つえ等)・褥瘡予防 ・移動・移乗に関する基礎知識 ・臥位から端坐位・座位・起立 ・移乗・車いすと車いす移動・歩行 ◎演習 ・ベッド上での移動の仕方(修了評価) ・車いすへの移乗の仕方(修了評価) ・車いすでの移動の仕方(修了評価) ・車いすでの障害物での移動の仕方(修了評価)

<p>くみと自立に向けた介護 (8) 食事に関連したところとからだのし</p>	<p>6時間</p>		<p>1時間 1時間 1時間 1.5時間 1.5時間</p>	<p>◎講義 ・ 食事をする意味・食事のケアに対する介護者の意識・低栄養の弊害・脱水の弊害・食事と姿勢・咀嚼/嚥下のメカニズム・空腹感・満腹感・好み・食事の環境整備（時間/場所等）・食事に関する福祉用具の活用と介助方法、 ・ 口腔ケアの定義、 ・ 誤嚥性肺炎の予防 ・ 食事の意義・目的・食事のケアに対する介護者の意識・低栄養の弊害・脱水症の弊害 ・ 食事と姿勢・咀嚼・嚥下のメカニズム・食事の環境整備・食事に関する福祉用具の活用と介助方法 ・ 食事動作の姿勢変化・口腔ケアの定義 ◎演習 ・ 片麻痺がある方への食事介助の仕方（修了評価） ・ 視覚障害がある方の食事の仕方（修了評価）</p>
<p>らだのしくみと自立に向けた介護 (9) 入浴、清潔保持に関連したところとか</p>	<p>6時間</p>		<p>1時間 1時間 1時間 1.5時間 1.5時間</p>	<p>◎講義 ・ 羞恥心や遠慮への配慮、 ・ 体調の確認・全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方） ・ 目/鼻腔/耳/爪の清潔方法・陰部清浄（臥床状態での方法） ・ 足浴・手浴・洗髪 ・ 入浴の意義・目的・入浴介助での基本 ・ 身体の清潔介護・更衣動作 ・ 入浴動作 ◎演習 ・ 羞恥心へ配慮した着脱の仕方（修了評価） ・ 清拭介助の仕方（修了評価）</p>
<p>立に向けた介護 (10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自</p>	<p>6時間</p>		<p>1時間 1時間 1時間 1時間 1時間 1時間</p>	<p>◎講義 ・ 排泄とは・身体面（生理面）での意味・心理面での意味 ・ 社会的な意味・プライド/羞恥心・プライバシーの確保 ・ おむつは最後の手段/おむつ使用の弊害・排泄障害が日常生活上に及ぼす影響・排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連・一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法・便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫/繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ） ・ 排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連 ・ 自立支援の視点 ・ 排泄介助 ◎演習 ・ 羞恥心へ配慮した排泄介助の仕方（修了評価） ・ おむつの当て方（修了評価） ・ 汚染された部分の洗浄の仕方（修了評価）</p>

<p>(11) 睡眠に関するところとからだの仕組みと自立に向けた介護</p>			<p>1 時間 1 時間 1 時間 1 時間 1 時間 1 時間</p>	<p>◎講義 ・安眠のための介護の工夫、○環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室）、○安楽な姿勢・褥瘡予防 ・睡眠の意義・目的・睡眠障害について・個別差 ・一般的注意と工夫・夜間頻尿の予防 ・安眠のための介護の工夫・環境整備・睡眠ケアの工夫・褥瘡予防</p> <p>◎演習 ・安全/安楽な体位での臥床入眠介助の仕方（修了評価） ・座位・端坐位 ・臥位・腹臥位 ・側臥位・良肢位</p>
<p>(12) 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護</p>		<p>1 時間 1 時間 1 時間</p>	<p>1 時間 1 時間 1 時間</p>	<p>(12) 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護（通信） ・死の兆候・ターミナルケアのポイント。 ・介護者自身の死ぬまでにやりたいことを考える。 ・事例を読みスピリチュアルなケアとは何かをレポートする。</p> <p>(12) 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護（講義） ・終末期ケアとは、死に至る過程、介護現場のターミナルケア ・自分が望む「最期の在り方」について考える ・事例を考える</p>
<p>小計</p>		<p>51 時間</p>		

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス (学習計画)

科目名 (時間)	9 こころとからだのしくみと生活支援技術Ⅲ【75時間】 【生活支援技術演習】(12時間)			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を修得する。 			
項目名	時間	時間詳細		学習内容
		通信	通学	
				【生活支援技術演習】(12時間)
(13)介護過程の基礎的理解	6時間		1.5時間 1.5時間 1.5時間 1.5時間	◎講義 ・介護過程の目的・意義・展開、 ・介護過程とチームアプローチ ◎演習 ・アセスメント ・計画
(14)総合生活支援技術演習	6時間		2時間 2時間 2時間	◎演習 ・事例1 読み込み (脳卒中片麻痺)・演習作業 ・事例2 読み込み (認知症)・演習作業 ・発表・評価
小計			12時間	
合計時間数			75時間	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容(演習手法等)を、実習については実施方法(学習目的等)を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス (学習計画)

科目名 (時間)	10 振り返り【4時間】		
到達目標	・研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1) 振り返り	2時間	1時間 1時間	◎講義 ・研修を通して学んだこと、・今後継続して学ぶべきこと、・根拠に基づく介護についての要点(利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等) ・研修のまとめ・根拠に基づく介護 ◎演習 ・研修を通して学んだことを話し合う
的 修 修 了 後 に お け る 継 続 的 研 修	2時間	1時間 30分 30分	◎講義・継続的に学ぶべきこと ・研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例(Off-JT、OJT)を紹介 ・勉強・学習・研修の意味・現場での研修・研鑽 ◎演習 ・介護初任者研修を受講し学んだことを、今後どのように生かしていきたいか話し合う ・実践的スキルをセルフチェックする
合計時間数		4時間	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容(演習手法等)を、実習については実施方法(学習目的等)を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。